

美術学部

教養部会講師 早川 知江

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
学会発表「日本語のCIRCUMSTANCE Systemについて」	2010. 10. 9	日本機能言語学会(JASFL) 第18回秋期大会	日本語のテキストを過程構成の側面から分析しようとした場合の、状況要素に焦点を当てて論じた。 日本語では、状況要素を具現する文法要素が、名詞群、後置詞句、形容詞群、副詞群、動詞群など多岐にわたると考えられるが、これらの要素は、参与要素、あるいは節との境界があいまいなことが多い。そのため、状況要素と参与要素・節の違いを整理することで、状況要素を具現する文法要素を明確にし、それらの要素によって具現される状況要素のタイプをまとめることで、日本語の状況要素選択システムの一案を提案した。
論文「節境界に関わる問題：動詞の文法化」	2010. 10	Proceedings of JASFL. Vol. 4: P79-92	日本語において節境界を認定する場合に生じる問題のうち、動詞の文法化に焦点を当てて論じた。節は述部をもつ単位であり、日本語では動詞群、形容詞群、名詞群+コピュラ（だ）が述部として機能する。しかし実際には、動詞群が文法化によって機能語の一部となり、述部を担わないケースが多い。動詞群が節を成す場合と成さない場合をどう判別するか、その判断法をテキスト分析に基づいて提案した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項	
授業科目 英語1（初級）		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要		教材・資料等の概要
本年度から、「英語1」「英語2」をそれぞれ「初級」「中級」に分けることで、より学生の英語力に合った授業を展開できるよう工夫した。「英語1（初級）」では、中・高までに履修した英文法を1から復習し、大学レベルの授業への橋渡しを行う事をこころがけた。		授業は初級文法の教科書を使用して行った。毎回その日に勉強する部分を前もって予習し、問題を解いてくることを指示した。それにより、自分がどこが分からないかを認識したうえで授業に臨むことができ、学習効率が上がったと考える。

授業科目 英語 2 (初級)		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
本年度から、「英語 1」「英語 2」をそれぞれ「初級」「中級」に分けることで、より学生の英語力に合った授業を展開できるよう工夫した。「英語 2 (初級)」では、中・高までに履修した英文法を 1 から復習し、大学レベルの授業への橋渡しを行う事をこころがけた。	講読テキストは実際に英語圏で用いられている英文の中から選び、毎回、プリントを制作して配布した。プリントには、学生が自分で単語をメモして書き込むスペースや、板書事項をメモする部分なども設け、教材としての利便性を図るとともに自主的な学習を促した。プリントは毎回全員分回収して採点した。	
授業科目 英語 3		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
「専門に関わる英語を読んでみよう」という副題のもと、英語の画集や作家紹介文、英語の歌詞や楽器の説明、絵本や幼児教育にかかわる文献など、学生の専門領域に関わりの深い英文を取り上げた。それにより、学生が各ジャンルに特有の書き方や用語を身につけ、英語を道具として自分に必要な情報を手に入れることができることを目指した。	講読テキストは実際に英語圏で用いられている英文の中から選び、毎回、プリントを制作して配布した。プリントには、学生が自分で単語をメモして書き込むスペースや、板書事項をメモする部分なども設け、教材としての利便性を図るとともに自主的な学習を促した。プリントは毎回全員分回収して採点した。	

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
日本機能言語学会 (JASFL)	2000. 4～現在まで	学会発表・学会誌への投稿